



# はせやまの風



舞鶴市立新舞鶴小学校だより

令和7(2025)年12月23日発行

白糸中学校区「目指す子ども像」

自ら学ぶ子・人とつながる子

心も体も鍛える子・ふるさとを愛する子

学校HP



## 自己有用感 ~「そうじ」の意義~



私事ですが、今から20年前に、ニュージーランドでの海外教員研修に2か月間行く機会を与えていただきました。教師になって10年目を迎えた頃でした。日本の学校システムも内部の人間として、もう十分に理解し、自分の教育実践にも少しばかりの自信というものが芽生えてきていた時期だったように記憶しています。そんなタイミングでの海外研修でした。全国から12名の教員が集まり、一緒に研修を受けました。間の1か月間は、ホームステイをしながら現地の学校に入り授業をするという、英語もろくに話せない者が日本人学校ではなく、現地の学校で1日過ごし、授業も行うという途方もない、過酷な研修でした。今思うと、若かったからこそ成し得た無茶ぶりだったかなと思います。

1か月間、現地の学校で過ごす中で、日本では考えられないことの連続でした。日本でいう中間休みは、それぞれが持ってきている「おやつタイム」であることや先生は子どもの下校と同時に勤務解除、そうじは業者が行う等々、目が点になることばかりでした。日本の学校との様々な違いの中で、うらやましいと思うものもあれば、日本の学校の方がよいと思うこともあります。その一つが「そうじ」でした。海外の学校においてよく言われるところです。私が研修を行った学校も、子どもたちは自分が使った教室や特別教室のそうじは一切しません。それはクリーニング業者が行うことだという考え方でした。だから、どんなにごみが散らかっていても、平気でそのままにしていました。先生もしかりです。日本なら当然、片付けせたり、きれいにさせようしたりしますが、そこは文化の違いでした。

日本の学校では、おそらく日本全国「そうじ」が1日の学校生活の中のどこかに位置付き、教育活動の一つの重要な柱となっています。いろいろ考え方はあると思いますが、私は、子どもたちに「そうじ」の意義を考えさせ、「そうじ」を一生懸命に頑張れる子にしたいと取り組んできました。

「そうじ」を一生懸命に頑張れる子って、つまりはどんな子なのでしょう。私が考えるに、「そうじ」を一生懸命に頑張れる子は、人のために頑張れる子、人のことを大事に考えられる子だと思っています。自分が落としたごみでもないし、自分が汚したのでもないところを、そこを使う人が気持ちよく使えるようにと思い、きれいにする。人は汚いところよりもきっときれいなところの方が喜んでくれる。そんなことを考えながら（意識はしていないかもしれません…）一生懸命掃除をする。まさに「他者貢献」です。そういう子を育てる一つの取組が「そうじ」であり、日本の学校で大切な教育活動として位置付けられているのではないかでしょうか。

人はそれぞれに幸せを感じる瞬間があります。心理学者アドラーは、全ての人に共通する幸せを感じる瞬間は、「他人に貢献できていると感じたとき」と言っています。大人なら自分の行動を自分で肯定し、他人に対して貢献できていると自分で感じができるかも知れませんが、子どもには、他人のために頑張った行動を見た時には、「ありがとう」「助かったよ」「してくれて本当にうれしい」と言葉で伝えて、実感させることが大切です。その言葉で他者貢献への幸せを実感し、「自分は人のために役立つ人間なんだ」

「人のために貢献できる力を持っているんだ」と自己有用感が高まり、それが「自己肯定感」の高揚へつながっていきます。

明日から冬休みになります。子どもたちにとって、楽しいことがたくさんある冬休みですが、家庭では、年末の大掃除や買い出し、お客様を迎える準備などしなければいけないことが山のようにあります。この忙しい年末年始こそ、子どもたちに家族の一員としてお手伝いではなく、「仕事」を位置付け、やり終えた後には喜びや感謝の言葉シャワーを浴びさせてください。家族のために役に立てたという実感の中で子どもたちは自己有用感や自己肯定感を高め、それは気持ちの安定や物事への積極性につながっていきます。冬休みの期間だけで十分に高められるものではありませんが、普段できない時間のかけ方や子どもへの関わり方ができる時期だからこそ、ぜひ取り組んでいただけたらと思います。



暑い暑い夏から始まり、一瞬で過ぎ去った秋、吐く息が白く、雪の降る冬を迎え、3つの季節を過ごした長い2学期が、本日無事に終了しました。子どもたちは、日々の学習ではもちろん数多くの行事の中で大きく、さらにたくましく成長しました。終業式に臨む子どもたちの表情は、満足感や達成感にあふれるきらきらとした笑顔でした。このような子どもたちの成長を目の当たりにできたのも、保護者・地域の皆様の温かいご理解とご支援のおかげと心より感謝申しあげます。ありがとうございました。15日間の冬休みとなりますが、新たな1年を迎える節目として、有意義なお休みになればと思います。

ご家族おそろいで、よいお年をお迎えください。

校長 亀井 敬介 教職員一同

